



令和2年度

研 修 集 録

秋 田 県 立 六 郷 高 等 学 校

巻 頭 言

校 長 佐 藤 智 和

教員を長くやってきて、残念に思うことの一つは、成果が形として残らないということである。教案を毎時作ったり、授業後の反省も毎時書いたりという方は、それが記録として残るであろうが、そういう方は希であろう。少なくとも私はそうはしてこなかった。頭の片隅にぼんやりとした記憶がいくつかあるだけである。

その点、物づくりの人たちはうらやましい。大工さんは、この家は俺が建てたんだと自慢できるし、インテリアデザイナーさんは、あの内装は私が手がけたのよと語れるであろう。かつて修学旅行の引率で瀬戸大橋を訪れたとき、その壮大さに圧倒され、人類はこんなものを造れるのかと感動したが、同時に、この建造に携わった土木技術者たちは誇らしいだろうと、うらやましくも思ったのを覚えている。

教育の成果が見えるとしたら、どのように教え子が育っていったかということになると思うのだが、これがまた見えづらい。だから、教え子に有名人がいる教員は、あれは自分が教えたんだとよく自慢したりするが、その気持ちはよくわかる。

有名人の卒業生がいなくても、教員をやってて良かったとか、誇らしく思える時は誰にでもあろう。

二十年以上前の話だが、家族でとある温泉を訪れたとき、ホテルのフロントマンとして働いていた卒業生から「先生のおかげで卒業できました。本当に感謝しています」と言われたときはグッときた。実際、彼は数学が超苦手だったので、いかにわかって貰おうかと腐心したし、成績をつける際も今でいう観点別評価を先駆けてだいぶ使った記憶はあるが、私は彼の担任でもなかったし、学年部も違って、単なる一教科担当でしかなかった。その程度の関係である。だからフロントで思いがけず数年ぶりに再会したときも、こちらは何の気なしに元気にやってるかぐらいのつもりだったが、先ほどのように丁寧に挨拶されびっくりした。そして、そんな風に思ってくれていたのかと、お世辞とわかっていてもうれしさが溢れてきた。

この話も、今初めてここに記したのでめでたく記録に残ったが、そうでなければ私の頭にしか残らない話である。

学校が研修集録を発行するのも、授業力向上や授業改善につながるのはもちろんのこと、職員の奮闘を少しでも形のある成果として残りたいからである。本校は長らく研修収録を発行してこなかったが、今回、これが実現できたことは誠に喜ばしいことである。

読者諸氏には、紙面の裏に隠された職員一人一人の教育への思いや情熱を感じ取ってもらえれば幸いである。また、ぜひご意見やご批評を頂戴したいところである。

最後に、寄稿した職員、編集に携わった職員にお礼申し述べる。こういう地道な作業が個々の力量を高め、学校全体の教育力を高めることにつながると信じている。

目 次

巻頭言

校長 佐藤 智 和

1	校内研修 (授業参観週間)	・・・・・・・・	1
	第1回 令和2年6月11日(木)～6月23日(火)		
	第2回 令和2年11月2日(月)～11月20日(金)		
2	研究授業	・・・・・・・・	5
	国語科 永田 聡		
	英語科 深沢 隆彦		
	体育科 小野 孝之		
3	県総合教育センター研修	・・・・・・・・	13
	(1) 5年研 家庭科 檜岡 明日美		
	養護教諭 小林 瑠生		
	(2) 8年研 英語科 深沢 隆彦		
	商業科 小松 徳彦		
	(3) B研修「学校組織マネジメント研修講座」		
	総務部主任 芦原 康一		
4	特別支援教育	・・・・・・・・	28
5	教員介護実習	・・・・・・・・	31
	福祉科 高橋直子		
6	編集後記	・・・・・・・・	34

1 校内研修 (授業参観週間)

- (1) 研修テーマ「基礎学力の定着・楽しく分かる授業」を実現する。
 (2) 教科を越えてお互いの授業を参観し、感想や意見を交換することで授業の改善に活かす。

第1回 6月11日(木)～6月23日(火)

参観教科(科目)	学年	参観者教科	感想
福祉(社会福祉基礎)	1年	国語	目標と授業の流れが明確に示されていた。普段は授業する立場であり感じなかったが、いかにそれが効果的かが実感できた。グループ学習は明るい雰囲気話し合われており、先生の説明も実に分かりやすく、優しい口調であると同時に明快であった。国語総合の授業とはまた違う生徒の面が見えたことも収穫であった。
国語(古典)	2年	国語	音読を大切にされた授業であり、生徒達もよく声を出していた。範読の声がとてもリズム感がよく、美しく響いておりビートを変えたりと配慮もあった。生徒に声を出させる工夫をどのようにしているかを伺いたい。勉強になった。
福祉(社会福祉基礎)	1年	商業	ライフサイクルについて法律と照らし合わせた内容だったので、難しいと思ったが、サザエさんを教材にしたことで身近に感じ親しみやすさがあった。担任として、クラスの様子が分かりよかった。
福祉(社会福祉基礎)	1年	商業	日本国憲法と福祉の関係という目標で難しいだろうと構えた。先生が生徒へ問いかけながら授業を進めていくのがとても良かった。プリントも効果的に作られていて、授業の流れをつかむことができた。
福祉(社会福祉基礎)	1年	商業	日本国憲法に関する内容だったので、生徒には理解できるのかと思った。繰り返しの指導と分かりやすいプリントによって生徒を授業に引き込んでいた。さらに机間巡視をしながら一人一人のプリントを確認していた。一斉指導(指示)ではなかなか伝わらないので、確認することは大変ではあるが参考になった。
数学(数学Ⅱ)	2年	英語	授業規律が良く、生徒が集中して取り組んでいた。目標の提示も明確であり、何をすべきかはっきりとしていて良かった。解法の手ほどきにも先生の工夫があり、多角的な視点で解にたどり着く指導で授業がおもしろかった。

理科 (生物基礎)	2年	英語	導入時の授業確認の段階で、生徒のやり取りを大切にされているのが印象的だった。発問に対して難儀している生徒にもヒントを小出しにして誘導していくところはとても参考になった。説明が必要最小限であり、後は生徒に何かを考えさせ気付かせるかが字の大きさやチョークの色使いなど、生徒がノートを取りやすい工夫をされていて大いに参考になった。
国語 (現代文B)	3年	国語	ポイントが絞られていて非常に分かりやすく、黒板の色使いも参考になった。問いが精選されているせいか、生徒がしっかりと理解しじっくりと考えていた。何より、授業を拝見して見落としていた箇所に気付かされ、なるほどと私が非常に勉強になった。
国語 (国語総合)	1年	国語	「本時の目標」「本時の流れ」が明示され、生徒にとって非常に分かりやすい授業になっていると感じた。指示が非常に明快で、生徒は一度で理解をして、私の授業では聞き返されたりするので大変参考になった。何より「、」「。」で交互に音読演習させる方法が勉強になった。この方法は、生徒により集中させて練習させることができると思い是非授業に取り入れたい。
情報 (情報処理)	1年	数学	数学の授業ではなかなか理解できない生徒が、ワープロ打ちでは黙々と手を動かしていた。関数の入力など、できた段階で挙手をさせて確認をしていたがT・Tの授業ということで上手く役割分担ができていると感じた。できる生徒ができていない生徒を教えたり教わったりする場面が随所に見られ、意欲的に活動していた。授業を持っていないクラスの様子を学年主任として知ることができたいい機会となった。
福祉 (生活支援技術)	1年	数学	本時の目標と流れが最初に提示されていて、生徒は見通しが立てやすいと思った。板書や教科書の重要ポイントなどの指示が明確であった。血圧と酸素濃度の測定を行う時も、素早くペアで行い真剣に授業に取り組んでいると感じた。福祉の専門科目なので、真剣さが伝わってきて真面目で意欲的であった。

第2回 11月2日(月)～11月20日(金)

参観教科(科目)	学年	参観者教科	感想
家庭(家庭総合)	1年	体育	本時の目標が明確であり、目標達成に向けての授業の流れがとてもよく分かった。掲示物を使うことで、生徒達の興味関心を引き出し生徒達の理解が深まっていることが分かった。また、提示するフリップの色分けや写真を出すタイミング、さらに問いかける声も生徒を引きつけていて大変参考になった。自分が担当する保健でも食生活と生活習慣病と関連する内容だったので他教科との連携と「教科横断的な視点」の大切さを強く認識した。
体育(体育)	2年	数学	学習のねらいと目標がホワイトボードを使って明確に提示されていた。グループによって人数の差があったが、人間関係の配慮をして頂いていると推察した。いきいきと活動していて活気にあふれていた。
福祉(こころとからだの理解)	2年	数学	担任の授業でありリラックスしていると感じた。本時の目標を敢えて提示しないで、グループで話し合ってから入る方法は画期的であった。この方法は自分の意見を言いやすいかもしれないと思った。
家庭(家庭総合)	1年	商業	本時の目標や学習の流れについて、常に見える位置に提示されていた。板書が丁寧に整理され板書計画がしっかり考えられており、生徒にとってもノート整理がしやすいと思った。栄養素に関する学習だったので、生徒に自分の健康を考えさせることができる内容であった。
理科(生物基礎)	2年	商業	自分の授業以外を受けている生徒を見るのは、すごく新鮮であった。ペアで考える時も一人で学習している時も集中して取り組んでいる様子が見られた。細かな机間指導のおかげであると伝わってきた。クラスの生徒が落ち着いて授業を受けていることに担任として安心した。
体育(体育)	1年	商業	内容はダンスだったので、グループで振り付けを考えたり、協調して取り組む必要があり難しいと思った。しかし、生徒達は楽しそうに参加し、自然とコミュニケーションが取れていたと思う。発表会が楽しみである。また、「体力が落ちたと感じる」生徒が多いので、体育の授業はとても貴重な時間だと改めて思った。

福祉(生活支援技術)	3年	英語	食中毒の予防に関する内容だった。介護福祉士国家試験にも関係する内容だということにより詳しく授業に向かう生徒達は真剣だった。家庭総合の内容とも関連しているということだったが忘れていた者もいて、確認するように丁寧な指導をしていた。生徒に発問し確認をして、時間をおいてからまた同じ質問を同じ生徒にして確実に覚えさせていた。このやり取りから楽しい授業の様子が伝わってきた。
家庭(家庭総合)	2年	数学	普段は元気の良いクラスだが、授業になると大人しい。自信のない生徒が多いクラスだが、先生は声かけを上手にしながら答えを求めている。リズムカルな授業の進行に生徒も引き込まれるように参加していた。
体育(保健)	1年	福祉	本時に目標と学習のねらいがきちんと板書されていて、授業の流れを知ることができた。また、最初に授業内容の説明がありよかった。声が大きく後ろの席の生徒にも聞こえていた。
家庭(家庭総合)	2年	体育	電卓を使うことで生徒は何をするのかと興味を持っていた。収支と支出の構成に説明には自分も勉強になった。家計簿の演習は収支の実情を知ることができるので大切なことだと思った。「家庭」という科目がいかに日常生活に必要なかを知ることができた。
数学(数学Ⅱ)	2年	英語	生徒の実態を見極めつまずきそうなポイントに先回りして指導されていた。生徒の反応を確かめながらタイミングよくセンスの良い授業であった。難しいことばを分かりやすく生徒の目線に合わせ、かみ砕いての声かけに生徒は理解しやすいと感じた。
福祉(生活支援技術)	1年	国語	詳しい授業の流れに加え、時間の提示もあり介護実習の様子を初めて拝見した私にも理解することができた。PDCAノートの活用など、生徒に考えさせ、実践させる授業の組み立てが素晴らしかった。色使い、図や絵など板書(ホワイトボード)が見事であり参考になった。
		体育	本時の目標や学習の流れの提示が的確で、生徒にも授業の組み立てが分かりやすいと感じた。説明の時間、実技の時間、まとめの時間と区切りがよく、生徒達は集中して授業に参加していた。学習の流れに時間を提示する部分は是非自分の授業にも取り入れたいと思う。

国語科「国語総合」学習指導案

実施日時：令和2年10月20日（火）6校時
場 所：1年2組教室
対 象：1年2組（普通福祉科16名）
授 業 者：永田 聡
教 科 書：新編 国語総合 改訂版（大修館書店）

1 単元名 日本語を考える「漢字の性格」（金田一春彦）

2 単元の目標

- (1) 文章の構成や展開を確かめ、漢字の特色や漢字を学ぶ意義について、書き手の意図をとらえようとする。（関心・意欲・態度）
- (2) 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価し、書き手の意図をとらえる。（読む能力）
- (3) 表意文字の特徴等、漢字の特色及び日本語における漢字の働きについて理解する。（知識・理解・技能）

3 生徒と単元

・ 生徒観

生徒はこの単元に入る前に漢文の授業を受けているが、「漢字」に対しては少なからず苦手意識を持っている。

・ 教材観

日本語の文字としての「漢字」の性格について、生徒はこれまで意識せずに生活してきたはずであり、この教材を通してただ難しいだけという「漢字」のイメージを払拭してもらいたい。

・ 指導観

日本語が、世界でもまれに見る複雑な表記法を用いていることを理解させ、今後も生活に欠かせない「漢字」を学び続けることの重要性を実感させたい。

4 単元の指導計画

- 1時間目… 導 入 「漢字」の必要性について気付かせる。 【本時1／5時間目】
2時間目… 本文 第一段落 日本語における文字使用の複雑性について理解させる。
3時間目… 本文 第二段落 表音文字と表意文字の特色について読み取らせる。
4時間目… 本文 第三段落 「漢字」の持つ表意性について理解させる。
5時間目… 本文 第四段落 「漢字」の新語を作ることができる性質について気付かせる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度(A)	読む能力(B)	知識・理解(C)
文章の構成と内容の概要を把握しようとしている。	文章の構成と内容の概要を把握している。	表意文字と表音文字の違いと、それぞれの特徴を理解している。

6 本時の学習

1. ねらい: 普段の学習で難しさを感じる「漢字」が、日本語にとって必要なものであることを実感させる。

2. 学習過程

	学習活動	指導上の留意点及び教師の支援	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書により、皆に提示する。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本時のねらい: 漢字の存在について改めて考え、その重要性について見直してみよう。 </div>		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字が無くなったときのことを想像し、どんなことが起きるか考える。 ・隣の生徒と意見の交換を行った後、個人の考えを発表する。 ・漢字を用いない場合の実例について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字が無くなることで起こる「困ること」と「良いこと」の2つの観点から考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・意見交換は用紙を交換することで行う。 ・発表された意見を板書し、皆に提示する。 ・板書や資料プリントを参照させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対し、自らの意見を主体的に表現している。(A)
整理 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字」に対する重要性について改めて考え直す。 ・次時の学習内容について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字」に対するイメージの変化をワークシートに記入させる。 ・次時は教科書本文の読解に入ることを指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の必要性について理解している。(C)

英語科「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

実施日時：令和2年10月20日6校時

場所：3年3組教室

対象：3年3組

授業者：深沢隆彦

教科書：VISTA II（三省堂）

1 単元名 Lesson8 Shodo, Old and New

2 単元の目標

(1) 書道についての英文を意欲的に読み進めることができる。

(2) 部分否定や助動詞＋受け身を用いた英文の意味を理解し、それらの用法を理解することができる。

(3) 助動詞＋受け身を用いた文を使って、「住むなら秋田 or 東京について」を英語で発表することができる。

3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

身近な話題などについて、自分の考えや気持ちを含ませながら、メモやキーワードをベースに簡単な英語で表現することができる。【3年前期～3年後期 話すこと (発表)】

4 単元観

本単元では書道についての内容が取り上げられている。扱われている言語材料は部分否定と助動詞＋受け身である。部分否定は「必ずしも～でない」ということを説明する際に用い、助動詞＋受け身は目的語に当たることばを文頭において説明する際に用いることがある。実際にあるテーマを議論し報告させる際に使用させることでその働きを理解させていく。

5 生徒観

英語に対して苦手意識を持って入学してきた生徒たちではあるが、素直で意欲的に授業に取り組むことができ、ペア活動等に積極的に取り組んでいる。身の回りのことについて英語を使って自信を持って表現することが課題であるので、生徒の意欲を引き出せる機会を設定し、自信をつけさせたい。

6 単元計画

1 時間目…Introduction, Part1①文法

2 時間目…「住むなら秋田 or 東京について」についての意見交換、発表【本時2／7】

3 時間目…Part1②

4 時間目…Part2①文法

5 時間目…Part2②

6 時間目…Part3①文法

7 時間目…Part3②

8 時間目…Exercises,次授業への問いかけ

7 単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
グループワークに積極的に参加し、相手にわかりやすく説明している。	伝えたい内容をまとめ、to不定詞を用いて、わかりやすく伝えることができる。	相手の説明を聞いて何を伝えたいか理解することができる。	読んだり聞いたりした内容を、簡単な感想を述べるために、それらの表現を使うことができる。

8 本時の学習

(1) 目標

- ①「住むなら秋田 or 東京について」についての意見交換ができる。
- ②「住むなら秋田 or 東京について」助動詞+受け身を用いた文を使って報告書を作り発表することができる。

(2) 指導計画

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	・ Warm-up クリスクロス	○英語を使用する雰囲気を醸成させるための質問を JTE がし、使用言語材料への意識付けを行っていく。	
展開 35分	・ 本時の目標を提示する。		B
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 住むなら秋田 or 東京について理由をつけて発表できる！ </div> ・ グループ内で意見交換をする。(付箋紙を利用) ・ グループとしての意見をまとめ、協力して原稿を作り発表する。	○ “I can use~ in Akita.” “We will~ in Tokyo.”等を用い、意見を交換する。モデルを示し、日本語でもかまわないことを伝え、スムーズに活動に移れるよう促す。グループ討論を通して自分の意見を述べるように支援をする。 ○内容を説明するのに適切(「①~されることができる」②「~されなければならない」③「~されるだろう」等 助動詞+受け身を用いてみる)な英文を用意し、自分たちのグループの報告が相手に伝わるような英語を作ることができるよう指示する。 秋田派か東京派のどちらかの立場に立って意見をまとめていく。発表の際の助けになるようキーワードやポイントをシートにまとめるよう指示する。 例:” ○○ can be used in Akita.” “○○ must be used in Tokyo”	
まとめ 10分	・ 発表の中で使用された効果的な表現を再確認し、発表内容に対するコメントを聞く。	○発表後に内容に関する質問をし、理解が深まるように配慮する。 JTE からのフィードバックにより考えを全体で共有できるようにする。 ○発表の良かったところや今後にかせるところを全体で共有する。	

Which do you want to live in, the countryside or a city?

準備用 日本語

① 私たちは _____ に住みたい。

② _____。

③ _____。


* ~するための... や

~するために... の表現を入れよう

④ だから私たちは _____ に住みたい。

英語

Hello, everyone.

We _____.

So _____

Which do you want to live in, Akita or Tokyo?

準備用 日本語

① 私たちは _____ に住みたい。

② _____。

③ _____。

*「～ができる」「～だろう」「～しなければならない」

等の表現を入れよう

④ だから私たちは _____ に住みたい。

英語

Hello, everyone.

We want to live in _____.

So _____

～されることができる

～されるだろう

～されなければならない

can/will/must + 受動態～

を使おう！

Class _____ no _____ name _____

保健体育科（体育）学習指導案

日 時：令和2年10月20日（火）6校時
場 所：第二体育館
対 象：1年1組（普通、福祉科19名）
授業者：小野 孝之

1 単元名 E. 球技 ネット型「バレーボール」

2 単元の目標

- (1) 役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をできるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
(思考力・判断力・表現力)
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとする事、互いに助け合い教え合おうすることなどや健康・安全を確保することができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 生徒と単元

① 生徒観

男子10名、女子9名、計19名のクラスである。このうち運動部に在籍している生徒は4名と少なく、運動することに対して苦手意識を持っている生徒が多いと感じる。また、パスやサーブ等の基本が身につけていない生徒も多いので、中学校における指導内容の学び直しも含めて、基本的な技術の習得と集団的技術の習得に重点を置き、最終的に自分たちで試合ができるように指導していきたい。

② 教材観

バレーボールはネット型に分類され、個人やチームの能力に応じた作戦を立てて、集団対集団で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。入学年次ではパスやサーブなどの基本的な技術を身につけることでバレーボールの楽しさや技術を習得した喜びを味わわせて、入学年次の次の年次以降の学習へとつなげていきたい。

③ 指導観

パスやサーブ等の基本的な技術練習やミニゲームを通してバレーボールの楽しさを体験させるとともに、個人技能を習得、向上させていきたい。そのために、ICT等を活用して実際に自己のプレイを撮影してフィードバックしたり、撮影した映像を仲間とともに検証したりして課題解決に向けて仲間と助け合い教え合いながら、バレーボールの楽しさや喜びを実感できるよう指導したい。

4 単元計画

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. オリエンテーション | 1時間 |
| 2. 個人技能の習得（パス、サーブ） | 6時間（本時2／6時間目） |
| 3. 集団的技術の習得 | 4時間 |
| 4. リーグ戦 | 4時間 |

5 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 技能	D 知識・理解
バレーボールの学習に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切に互いに助け合い教え合いながら安全に取り組むことができる。	自己や仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘したり、話し合ったりしている。	役割に応じたボール操作と連携した動きができる。	バレーボールの技術を身につけるための効果的な練習の仕方、ルール及び審判法を理解している。

6 本時の学習

(1) ねらい

アンダーハンドパスの自己や仲間の課題を見つけ、安定したボール操作につなげることができる。

(2) 学習過程

評価の観点 (A : 関心、意欲、態度 B : 思考、判断 C : 技能 D : 知識、理解)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、健康確認 準備体操 本時のねらいと学習の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席を確認し、健康状態を把握する。 怪我防止のために入念に行うよう声掛けを行う。 生徒が授業の流れを見通すことができるように説明する。 集中して話を聞くことができる体勢を作る。 	
<p>本時のねらい：アンダーハンドパスの課題を見つけて、安定したボール操作につなげる。</p>			
<p>発問：アンダーハンドパスでねらったところへパスするためには？</p>			
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> アンダーハンドパスのポイントを確認する。 アンダーハンドパスを行う。 グループでアンダーハンドパスの映像を撮影する。 撮影した映像をグループ内で見て意見交換をする。 アンダーハンドパスを行う。 アンダーハンドパスのラリーを行う。 (ミニゲーム) 	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれ、アンダーハンドパスのポイントを確認するよう指示する。 確認したアンダーハンドパスのポイントを踏まえて行うよう促す。 グループ内で撮影する人、トスする人、撮影される人に分かれるよう指示する。 それぞれの映像を見ながらホワイトボードシートに意見を記入するよう指示する。 授業の始めに確認したアンダーハンドパスのポイントの視点から映像を見るように促す。 意見交換したことを踏まえて、アンダーハンドパスを行うよう指示する。 安定して長くラリーを続けるためにはどうすれば良いか、アンダーハンドパスのポイントやグループの意見交換した内容の視点を踏まえて考えるように促す。 	<p>自己や仲間の技術的な課題について指摘したり、話し合ったりしている。 (B) …観察</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 片付け グループごとに評価する。 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードシートにグループ内の評価を記入するよう指示する。 記入したホワイトボードシートを前方のホワイトボードへ貼るよう指示する。 自分の感覚だけでなく、視覚から得た情報や周りの見ている人の感覚も取り入れることで技術の習得、向上につながることに気付かせる。 元気で明るい挨拶をするよう促す。 	

第3学年3組 家庭科「子どもの発達と保育」 学習指導案

学校名：六郷高等学校
 普通科：教養家庭コース 17名
 指導者：檜岡明日美
 日時：令和2年7月14日（火）5校時

I期テーマ：「生徒の思考を高める授業展開についての工夫と実践上の課題」

課題：効果的な言語活動の充実をふまえた学習活動の展開

改善策：根拠や裏付けを交えながら、生徒が主体的に課題解決の手立てを導き出すことができる授業方法の確立。

1 単元名 子どもの生活

2 本時の計画

(1) 本時のねらい 幼児が望ましい生活習慣を身につけるための方法を考え、まとめることができる。

[思考・判断・表現]

(2) 展開 (50分)

段階	学習活動	指導上の留意点 (教師の支援)	評価 (方法)
導入 5分	1. 園児交流会打ち合わせでの園長先生との話（園児の生活習慣の低下）を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期に望ましい生活習慣を獲得できないことが子どもの心身に与える影響に気付かせる。 ・これまでの学習や経験を元に自分達にできることはないか問いかける。 	
展開 35分	本時の目標：子どもが楽しみながら生活習慣を身につけるための方法を考える。		
	2. 幼児（5歳児）の特徴を振り返る。 3. 望ましい生活習慣を身につけられない原因と解決策を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートで確認する。 ・学習形態を決めるよう指示する。 ・必要に応じてホワイトボードを使用できるよう準備する。 	望ましい生活習慣を身につけられない原因と解決策を考える。 (思考・判断・表現)
	発問：5歳児が、楽しみながら生活習慣を身につけるにはどのような方法があるでしょう。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・考えが深まるよう、個人や他のグループの話し合いに参加またはアドバイスをしよう助言する。 	・ワークシート
	4. 望ましい生活習慣を身につけられない原因と解決策をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児の特徴、話し合いの内容も踏まえてまとめるよう指示する。 	
整理 10分	5. 5歳児にどのような方法で生活習慣を身につけてもらいたいか考えを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容から、様々な視点や考えがあることに気付かせる。 	望ましい生活習慣を身につけられない原因と解決策をまとめ、どのような方法で身につけたいか記述することができる。 (思考・判断・表現)
	6. 今日の学習形態を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習形態の良かった点と改善点を助言する。 ・次時の学習計画を伝え見通しを持たせる。 	・ワークシート

3章 子どもの生活 3 生活習慣の形成 (P84~)

目標 子どもが楽しみながら生活習慣を身につけるための方法を考える。

3年3組 番 名前 _____

1 幼児(5歳児)の心身の特徴をまとめよう。

心身の特徴	遊びの特徴
① <input type="text"/> 機能・・・走る・跳ぶ・投げる	⑤ <input type="text"/> 遊び
②自己主張・・・ <input type="text"/> <input type="text"/> 自尊心・競争心の芽生え	⑥ <input type="text"/> のあるゲームやスポーツなど ↓ 約束事・・・ <input type="text"/> 性を学ぶ
③自発性・・・「なぜ」「どうして」	【教科書 P76】 ⑧ <input type="text"/> は子どもの生活のすべてである。
④ <input type="text"/> に興味をもつ・・・絵本 テレビ	↓ 身体的にも精神的にも発達し、自我を形成していく <div style="text-align: center;"> <p>遊びの中で育つもの</p> <p>身体の機能的な育ち</p> <p>情緒の安定</p> <p>生活の獲得</p> <p>友達との出会い・自己認知</p> </div>

2 望ましい生活習慣が身につけられない原因を考えよう。

問題	考えられる原因
①時間に関係なく、ゲームやテレビに夢中になる。	
②話している相手の目を見て話す・聞くことができない。	
③おはよう、おやすみ、いただきますができない。	
④はしを上手に使えない。	
⑤夜9時以降もテレビを観る。	
⑥毎日決まった時間に起きられない、就寝できない。	
⑦食生活に偏りがある。好き嫌いが多い。	
⑧天気が良くても外で遊ばない。	
⑨体力がない。すぐに疲れたと言う。	
⑩一人で本を読んだりすることが苦手。	

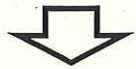
3 楽しみながら望ましい生活習慣を身につけてもらうための解決策を考えてみよう。

生活習慣	×	ただ練習を繰り返す	=	(例) 続かない
------	---	-----------	---	----------

生活習慣	×	楽しみながら練習を繰り返す	=	(例) 続く
------	---	---------------	---	--------

★身につけるなら生活習慣だけでなく・・・

も身につけさせたい！！



これをすべてクリアできる方法を考えてみよう。



子どもの特徴や
伝承遊びの良さを
思い出してみよう！

4 私が考えた楽しみながら望ましい生活習慣を身につけるための方法！

ズバリ

この方法を考えた理由は、5歳児の子どもがもつ

という特徴に注目し、これを生かしながら望ましい生活習慣を身につけることができると考えたからです。

この方法を採用することによって、

といった

も身につけることができると思います。

5 今日の学習を振り返って

子どもの生活習慣に関して考えたこと感じたこと	今日の学習形態に関する私の意見

令和2年度秋田県養護教諭年次研修（教職5年目研修・病院研修）報告書

養護教諭 小林 瑠生

下記のとおり報告します。

1. 研修名	令和2年度秋田県養護教諭年次研修（教職5年目研修・病院研修）
2. 期日	令和2年8月3日
3. 場所	秋田県総合教育センター
4. 研修内容	<p>1 <講義・協議> 養護教諭の特質を生かした保健教育への関わり方 ～令和元年度健康教育指導者養成研修伝達～ 県立矢島高等学校 養護教諭 黒木仁美先生</p> <p>2 <講義・演習> 総合教育センター担当研修（5月20日）について ～教師が使えるカウンセリングの技法～ 教育庁保健体育課 指導主事 熊谷有紀子先生</p> <p>3 <演習・発表> 保健室における個別指導や日常の学校生活での指導について 教育庁保健体育課 指導主事 熊谷有紀子先生</p>
5. 概要	<p>1 <講義・協議> 養護教諭の特質を生かした保健教育への関わり方 ～令和元年度健康教育指導者養成研修伝達～</p> <p>・健康教育について 健康教育は、学校全体・全職員で行うものであり、養護教諭は健康教育の指導者になる。現代的な健康課題を乗り越えるためには、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力を子供たち一人一人に育むことが課題となっている（中、教審答申）。学習指導要領改訂の考え方として、何を学ぶか、どのように学ぶか、そして「何ができるようになるか」が重要である。</p> <p>・児童虐待対応について 虐待相談の相談経路について、相談件数の総数のうち学校はわずか7%という結果がある。千葉県野田市の事案を踏まえ、「子どもの安全を最優先に」考えられた対策が示されている。「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」（文部科学省 令和2年6月改訂）を確認し、対応する。</p> <p>・保健管理の在り方（環境衛生） 学校薬剤師が職務に従事した際は、学校薬剤師執務記録簿に記入して校長に提出するものとする（学校保健安全法施行規則 第24条）。とあるが、この捉え方は、「学校薬剤師から校長に直接伝える」ということである。</p> <p>飲料水に関する集団下痢症や食中毒などの事故は多くあるため、飲料水の水質検査</p>

は毎日実施する。

・保健管理の在り方（健康診断）

健康診断は、あくまでもスクリーニング検査である。健康診断の診断結果について訴えられたケースがあるが、確定診断ではなく、スクリーニング検査であることを強調する。

・健康相談

児童生徒の心身の健康に関する問題について、児童生徒や保護者等に対して、関係者が連携し相談等を通して問題の解決を図り、学校生活によりよく適応していけるように支援していく。養護教諭がかかわり、心身の健康問題のために健康相談等で継続支援した事例が校種別で最も多いのが、高校であり、相談内容は「身体症状」「友達との人間関係」「家族との人間関係」である。

・アレルギー対応について

アレルギー疾患の理解からはじまり、関係者間での連携体制づくり、関係者間での情報共有、各種研修の実施、アレルギー症状を出さないための環境づくり、緊急時の速やかな対応について決めておく。

・救急処置について

救急処置の目的は、子どもの生命を守り、心身の安全を図ることである。AEDは何かあったときに5分以内に使用できるようにするため、どこにいても片道1分以内で持って行ける場所に設置することが望ましい。最近5年間にAEDのショックボタンが押された児童生徒のうち、医師から運動制限の指示を出されていたものは約30%、指示がなかったものは約70%である。学校管理下での心停止はまれではない。教職員の研修・訓練は毎年実施することが大切である。

・保健教育の在り方

健康教育では、「健康は大切である」ということが前提で話が進みやすく、しつけない内容になりがちで、アウトプットが少なくなりやすい。その結果、「大切」なのは頭では分かるが、つまらない・楽しくない・響かないと感じ、身につかない、残らないものになってしまう。特に、高校は成績や就職といった進路の問題が重要視されやすく、健康については二の次になりやすいため、伝えたい内容や伝え方を厳選する必要がある。また、内容だけでなく、ヘルスリテラシーの考え方も身につけられるような指導が必要である。

・学校保健マネジメントについて

保健主事のリーダーシップが鍵を握る。

・保健管理の在り方（現代的健康課題への対応）

健康課題の探り方は、文部科学省や厚生労働省、日本スポーツ振興センター、警視庁、日本学校保健会等、様々な方法がある。解決までの流れは、①対象者の把握 ②課題の背景の把握 ③支援方針・支援方法の検討と実施 ④児童生徒の状況確認及び支援方針・支援方法等の再検討と実施となる。

・保健管理の在り方（健康観察の重要性）

情報の教諭・協働体制の不十分さは危機管理の意識の薄さである。様々な視点・人からの観察が、子どもの変化への気づき・状況の改善に繋がる。

・保健管理の在り方（事例検討会の進め方）

ファミリー・マップを使い、問題点をプラス思考で捉えて意味づけし、気づき等について話し合う方法もある（ファミリーマップ）。

・保健管理の在り方（疾病管理と地域の連携機関との連携）

心臓系突然死の発生はランニングなどの運動強度の強いものに多く、校種別では高校での発生件数が最も多い。男性で午前中に発生しているケースが多い。多くの先天性疾患が小学校入学前に発見されるようになったが、未だに学校心臓検診で発見される児童生徒もいる。心電図検査では、不整脈の所見がしばしばあるが、軽度のものから突然死の原因になるものまで種類がある。心疾患や不整脈など、学校生活管理指導表が提出されている生徒については、主治医の管理指導区分を厳密に遵守する必要がある。学校生活管理指導表の規制は運動制限ではなく、「ここまではやって良い」という考え方である。規制を越えた運動は、事故が起こりうる。

学校医や地域との連携体制構築も必要である。

・子供の心のケア

行動異常を考えるときに、誘因（みかけの原因）に惑わされず、原因探しが最も大切である。幼稚園や保育園時代の情報は必須である。知的水準を超えると行動異常が現れるため、知的水準に応じて教え続ける必要がある。言葉に応じた正しい行動がとれるのは、言葉の認知が解釈以上の理解ができてからになる。そのため、想起レベルでは教え続けることが大切であり、どのレベルで理解できているか教師が正しく評価できなければならない。

子どもに向き合うときはめあてと手立てを区別して、対応をする。また、心理的問題はこちらが理解できることも多いが、どうしてそのように思えるのか分からないような精神症状については、こちらが相手をする「嫌われる」ため注意が必要である。相手をするのは主治医の許可を得てから対応する。メディア依存症や愛着障害は、ペアレントトレーニングが必要なこともある。

2 <講義・演習>

総合教育センター担当研修（5月20日）について

～教師が使えるカウンセリングの技法～

①教育相談の際大切にしたい考え方

円環的思考で決めつけずにいろいろ考えてみる大切である。一つのできごとに二つ以上の「疑問」と「複数の仮説」を立てる習慣をつける。また、察するのではなく「動きながら想像し、想像しながら動く」ことが大切である。問題が起きたときに、かわいそうな自分や悪いあなたを考えてしまう悪魔の思考ではなく、「今私にできることはなにか」といった悪循環を断ち切る思考・行動を目指す。

②話を聞く（傾聴する）ときの留意点

傾聴はこちらの聞きたいことを聞き出すのではなく、相手のいいたいことや思いを

聴く。傾聴している際は「繰り返し」「質問」「明確化」などを行い、詰問や叱責を感じさせる Why の繰り返しは避ける。また、話の内容だけでなく、ノンバーバルスキルを大切にする。そのため、話し始めや人間関係を構築しようと思ったときからではなく、普段の言動・立ち振る舞いが全てベースになっていることを忘れずに過ごす必要がある。

③カウンセリングの技法について

解決志向ブリーフセラピーとは、その人の悩みをなんとかしようとするのではなく、その人の力や希望・願いに焦点を当てる短期療法である。相談者自身が問題解決のためのリソースを持っていると考え、解決方法を引き出す手伝いをする。外在化や例外探しなどの技法を使い、原因ではなく解決に目を向けていく。その他、コーピングクエスチョンやスケーリングクエスチョンが効果的なこともある。

おわりに

守秘義務と個人情報の扱いには注意する。

3 <演習・発表>

保健室における個別指導や日常の学校生活での指導について

①保健指導の基本的理解

個別の保健指導の目的は、個々の児童生徒の心身の健康問題の解決に向けて、自分の健康課題に気づき、理解と関心を深め、自ら積極的に解決していこうとする自主的、実践的な態度の育成を図るために行われるものである。

②個別の保健指導の進め方

保健指導は、対象者の把握（保健指導の必要性の判断）からはじめ、健康問題の把握と保健指導の目標の設定、指導方針・指導計画の作成と役割分担、保健指導の実施と評価のプロセスを経て行う。特に、目標設定以降は関係職員と連携して進めていくことが大切である。

③保健指導における連携

校内組織体制づくりとして、学校保健計画に位置付け、教科等における保健教育や特別活動等における保健指導と関係を図る。

おわりに

平成29年に文部科学省から出された冊子「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」は高校には配布されていないため、各自で確認する。

6. 所感

今回の研修は、養護教諭としてどのように保健教育に取り組むべきか改めて考えさせられる有意義なものとなった。特に、連携が不十分であると感じたときは危機管理の意識が低くなっているという指摘が印象的であった。養護教諭として子どもたちの生命を守るという視点を大切に、学校全体で危機管理の意識を高めていけるよう連携していきたい。また、日頃から感じていた健康教育の難しさを再確認し、生徒にとって「残る」「できるようになる」ような指導を心がけて、伝える内容や伝え方を工夫

	<p>していききたいと感じた。さらに、インプットのみの指導になりやすいため、積極的に教科の保健の授業とも連携したい。</p> <p>カウンセリングの技法については、傾聴の際に意識しなくてもよく使っている技法もあれば、意識しないとあまり使えない技法もある。生徒の状況に合わせた傾聴ができるように、技法を意識して対応したい。相談してくる生徒の多くは一度で解決できるような悩みではなく、自分自身を理解しスモールステップで見方を変えていく必要があることが多い。また、高校生は卒業後、自分で解決していかなければならない状況が増えてくることが予想されるため、今回学んだ自身で解決方法を探らせるような解決志向ブリーフセラピーとスケーリングクエスチョンを組み合わせながら少しずつ良い方向へ向かえるようにしていきたい。</p> <p>個別の保健指導については、ほとんどが突発的に必要になり実施することが多いため、今回研修で示されたような計画を立てて行ったことはなかった。継続的に指導が必要な生徒については、計画を立てて実施することで記録として活用することができると感じたため、必要に応じて作成して指導したい。</p>
--	---

1. 研修名	令和2年度秋田県養護教諭年次研修（病院研修）
2. 期日	令和2年9月10日
3. 場所	秋田赤十字病院
4. 研修内容	<p>講義・演習1「感染症の予防と対策について」</p> <p style="padding-left: 40px;">講師 感染対策室看護師長 井上 貴子 氏</p> <p style="padding-left: 40px;">手術棟看護師長 福田 恵 氏</p> <p>講義・演習2「学校における緊急時の対応について」</p> <p style="padding-left: 40px;">講師 副院長（兼）救命救急センター長 藤田 康雄 氏</p> <p style="padding-left: 40px;">医療社会事業部社会課社会係長 竹澤 雄基 氏</p>
5. 概要	<p>講義・演習1「感染症の予防と対策について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準予防策の考え方で、感染症が疑われるか確認されたかにかかわらず、すべての人の血液、汗を除く体液・粘膜・損傷した皮膚は感染の可能性があるとして対応する。 ・手洗い・手指消毒の目的・・・①微生物の伝播リスクを減少させる <li style="padding-left: 40px;">②伝播ルートの遮断 <p>手洗いは物理的洗浄作用、手指消毒は科学的殺菌作用があるため、使い分けが必要。※手袋着用は手指衛生の代用にはならない。ピンホールがあると考えて対応をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防護具等の着脱の順番 <p>着る際はガウン・マスク・ゴーグル・グローブ。外す際は汚れているものからグローブ・ゴーグル・ガウン・マスク。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ、ノロウイルス、コロナウイルスの特徴や感染経路について <li style="padding-left: 40px;">インフルエンザもノロウイルスも原則はうつさず、うつらず、持ち込まず。 <p>講義・演習2「学校における緊急時の対応について」</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生について <p>胸骨圧迫がしっかりされていると救命率が上がる。しかし、呼吸の確認時に死戦期呼吸を正常な呼吸と間違えて胸骨圧迫に入らない事例が多い。圧迫の速さは110回/分で最も生存率が高い(スイートスポット)。140回/分以上になると生存率が急激に低下する。また、圧迫が速すぎると深さが損なわれる可能性がある。効果的な胸骨圧迫が行われないと、①脳への酸素の流れが止まる ②心臓への酸素の流れが止まる ③薬剤は行き場を失う。</p> <p>成人の蘇生において最初の5分は人工呼吸が不要というのは倒れたところが目撃されている、心原性心停止のみである。5分の猶予は組成を始めてからではなく、倒れてからの時間。</p> <p>小児の蘇生については、「胸骨圧迫と換気」が必要であり、換気を意識した蘇生を行う必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、アナフィラキシー、蜂刺され、痙攣、てんかん、外傷、心疾患、起立性調節障害、熱中症、COVID-19について ・心配蘇生とAED使用の演習 <p>AEDを使用すべきか迷ったら使う。除細動が必要ない場合にはショックは起こらないようになっている。</p>
6. 所感	<p>今回の研修では、標準予防策の基本的な考え方から医療現場でのレベルの高い感染予防対策について聞くことができた。いかにこまめな手洗いや手指消毒が大切か実感し、さらに手洗いと手指消毒の使い分けの重要性も改めて確認することができた。また、これから流行が心配されるインフルエンザやノロウイルス、コロナウイルスについても詳しく知ることができたため、保健だよりや掲示物に活用し、情報発信に努めたい。</p> <p>緊急時の対応については、特に心肺蘇生の胸部圧迫の重要性について科学的根拠を元を示していただき、理解が深まった。また、様々な救急外来での事例を伺い、救急車要請を迷う状況についても判断材料を増やすことができた。</p>

英語科「コミュニケーション英語Ⅰ」学習指導案

実施日時：令和2年5月22日2校時

場所：2年1組教室

対象：2年1組

授業者：深沢隆彦

教科書：VISTA I（三省堂）

1 単元名 Lesson 5 Baobabs in Madagascar

2 単元の目標

- (1) マダガスカルのパオバブについての英文を意欲的に読み進めることができる。
- (2) to不定詞を用いた英文の意味を理解し、それらの用法を理解することができる。
- (3) to不定詞を用いた文を使って、「住むのなら都会か田舎か」を英語で発表することができる。

3 単元とCAN-DO形式での学習到達目標との関連

身近な話題などについて、自分の考えや気持ちを含ませながら、平易な表現で伝えることができる。

【2年前期～2年後期 話すこと（発表）】

4 単元観

本単元ではマダガスカルのパオバブの木の役割についての内容が取り上げられている。扱われている言語材料はto不定詞である。to不定詞は、ものごとを相手に詳しく説明をしたり、理由を付け加えたりする役割があり、実際に使用させることでその働きを理解させていく。

5 生徒観

英語に対して苦手意識を持って入学してきた生徒たちではあるが、素直で意欲的に授業に取り組むことができ、ペア活動等に積極的に取り組んでいる。身の回りのことについて英語を使って自信を持って表現することが課題であるので、生徒の意欲を引き出せる機会を設定し、自信をつけさせたい。

6 単元計画

1 時間目…Introduction, Part1①

2 時間目…Part1②

3 時間目…Part2①

4 時間目…Part2②

5 時間目…Part3①

6 時間目…Part3②, Exercises, 次授業への問いかけ

7 時間目…「住むのなら都会か田舎か」についての意見交換、発表【本時7/7】

7 単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
グループワークに積極的に参加し、相手にわかりやすく説明している。	伝えたい内容をまとめ、to不定詞を用いて、わかりやすく伝えることができる。	相手の説明を聞いて何を伝えたいか理解することができる。	読んだり聞いたりした内容を、簡単な感想を述べるために、それらの表現を使うことができる。

8 本時の学習

(1) 目標

- ① 「住むのなら都会か田舎か」についての意見交換ができる。
- ② 「住むのなら都会か田舎か」 to不定詞を用いた文を使って英文原稿を作り発表することができる。

(2) 指導計画

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	帯活動 (次回の単語テストのための音読) ・ Warm-up クリスクロス	○to不定詞の用法を確認させる質問をJTEとALTがし、使用言語材料への意識付けを行っていく。	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「住むのなら都会か田舎か」について意見交換し to不定詞を使って発表しよう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で意見交換をする。(付箋紙を利用) ・グループとしての意見をまとめ、協力して原稿を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ “I think ~ I want to live in ….” ”we have a lot of places to go shopping….” 等を用い、意見を交換する。モデルを示し、日本語でもかまわないことを伝え、スムーズに活動に移れるよう促す。 ○内容を説明するのに適切(「①~すること」②「~するために」等 to不定詞を用いてみる)な英文を用意し、自分たちの立場のメリットが相手に伝わるような英語を作ることができるよう指示する。 	B
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の中で使用された効果的な表現を再確認し、発表内容に対するコメントを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表後に内容に関する質問をし、理解が深まるように配慮する。 ○発表の良かったところや今後にかかせるところを全体で共有する。 	B

簿記 学習指導案

日 時：令和2年7月9日（木） 3校時
場 所：秋田県立六郷高等学校 21教室
対 象：六郷高等学校 普通科 2年1組
 ビジネスコース 13名
授業者：六郷高等学校 小松 徳彦
教科書：新簿記 実教出版

1. 単元名 第11章 商品売買の取引 5. 商品有高帳

2. 単元の目標 商品有高帳について役割を理解し、その記入方法（先入先出法）について理解させる。

3. 単元と生徒

（1）指導観

生徒の実態を把握しながら、簿記に対する苦手意識を持たせないよう、ポイントとなる箇所は丁寧に指導をしていく。また、指導のなかで帳簿の記帳方法のみにとどまらず、生徒への発問等も工夫し、なぜその帳簿が必要なのか等を考える力を付けさせたい。その際、生徒同士で教え合う時間などを作り、簿記に対する苦手意識を克服し、意欲的に学習に取り組む態度を育成する。

（2）生徒観

男子11名・女子2名のクラスである。本学級の生徒は、全体的におとなしく積極的に発言する生徒が少ない。苦手意識から理解度にも差が出てきているが、理解度の早い生徒が自ら進んで言葉をかけ、助け合いながら前向きに学習を進めることができている。

4. 指導と評価の計画

第11章 商品売買の取引

- 1・・・分記法
- 2・・・3分法
- 3・・・仕入帳
- 4・・・売上帳
- 5・・・商品有高帳（本時 1/4）
- 6・・・商品売買益の計算

【評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
商品有高帳に関心を持ち、記帳方法を理解し、主体的に授業に取り組もうとしている。	商品有高帳の役割について理解し、記帳方法や計算方法を説明できる。	商品有高帳の記入方法を区別し、その記帳技術を身につけることができたか。	商品有高帳を作成するために必要な知識を身につけ、理解することができたか。

5. 本時の計画

- (1) 本時のねらい
1. 商品有高帳の役割を理解させることができたか。
 2. 商品有高帳の記帳に関する知識と技術を身につけることができたか。

(2) 展開

	学習活動	教師の指導・支援	評価の観点
導入 10分	<p>本時の目標：商品有高帳の役割や記帳方法を理解しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に目標を記入する。 確認 前回の授業の確認 ・商品売買の仕訳と転記で取引の確認を行う。 ・今までの記帳の流れを確認し、商品有高帳の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の説明やプリントを配布する。 ・プリントに目標を記入する ・周りを見て、自分の解答を確認し合う。 ・本時の授業内容を確認し、プリントに記入させる。 	
展開 35分	<p>演習1 払出単価を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・払出単価を計算方法を知る。 <p>発問：6/15に払い出されるリンゴの原価はいくらでしょうか？</p> <p>生徒の解答：130円、100円、160円など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月15日の払出単価がいくらになるか考える。 ・例を示し、季節や景気、社会情勢によって同じ商品でも原価が変わることを知る。 ・払い出し単価を計算するための方法が複数あることを知る。 <p>演習2 先入先出法による作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先入先出法により、プリントにある有高帳を作成する。 <p>・問題集 p59、14-1 に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取引の内容を確認する。 ・生徒に質問をしながら、答えがないことを伝え、単価がいくらになるか、自分の答えを考えさせる。 ・裏面の資料を確認させ、同じ商品でも時期により原価が変わることを説明する。 ・注意事項を確認しながら、一緒に記帳する。 <p>注意事項</p> <p>①先入先出法で記帳することを理解させる。</p> <p>②払出欄の単価に売価を記入する誤りが多いので必ず残高欄の単価を記入することを徹底させる。</p> <p>③単価の違うものが2種類以上ある時は【でくくることを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視し、進捗度を確認する。 ・様子を見て、途中経過を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記帳方法を理解し、先入先出法で帳簿を記帳している。 (思) プリント
整理 5分	<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記帳方法と、記帳する上での注意事項を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品有高帳の役割を理解できている。 (関) プリント

めざす生徒の姿

商品有高帳の記帳法の習得はもちろん、基本的な仕組みについて理解し、商品売買の適正な取引の記録と記録の効果的な活用についての意識を高め、計画的に物事に取り組む姿勢を身につけた生徒。

1 はじめに

採用から20年以上が経過し、いつの間にか校内で分掌主任を担当するようになっていた。学校事情によっては、ミドルリーダーとして学校経営に参画し、管理職をサポートしていかなければならない年代である。自分にとって一番足りない物は物事を大局的に判断し行動していく部分である。それを補う機会として今回の研修に参加することは有意義であった。二日間にわたって行われた研修の概要を報告させていただきたいと思う。

2 研修内容について

(1) 地域に開かれた教育課程

「学校は誰の物か?」という視点でコミュニティスクールの有効性について改めて学ぶことができた。学校が地域とともに生徒を育て、そして地域にとっての存在を確立していくことの大切さを学ぶことができた。特に、本校は既にコミュニティスクールであるため、このメリットを最大限に活かしながら六郷高校としての独自性を創っていきたい。

(2) 学校組織マネジメントとミドルリーダーの果たす役割

学校は様々な教員がマネジメントに基づいて教育活動を展開しているのが現状である。一見すると1人の教員の能力に負う部分が多い場合もあるだろう。しかし、学校力を上げるには教師力とそれによって育成された生徒の人間力が不可欠である。ということは個業型から協働型にいかにか転換をしていくかが重要になってくる。学校教育目標や校長の施政方針など、できるだけ全教員がそれらを十分に共有し、同じ方向に進んでいくことが求められる。本校は小規模校であるため、こうした考え方に基づいた教育活動は有効であり、生徒にも様々なメリットを還元できると考える。

(3) 本県の教育課題とミドルリーダーへの期待

本県が抱える様々な問題と実情を理解することができた。学校事情は各々異なるが、これからは学校が1つのチームとして管理職とともに教職員が教育活動に臨むことがより重要になってくる。その上でミドルリーダー（主任級教職員）として、使命感や責任感、学校ビジョンの構築と教育活動の実践、職場の活性化、同僚教職員の指導と育成等が期待される役割になってくる。同時に近年話題になっている働き方改革の推進にも関わっていかなければならない。風通しの良い職員室、風通しの良い学校作りにみんなが邁進していきたい。

(4) 内外環境の把握による学校の特色作りと課題解決策

標記の件を考えるに当たり、学校内外の能力や資源を開発、そして活用しながら学校に関わる様々な人たちのニーズと合わせながら教育活動を進めるプロセスがある。その際、学校をベースに見た場合、学校を取り巻く環境を内部環境と外部環境に分け、さらにこれらを強みと弱みに分析するSWOT分析が有効である。各環境が支援と阻害、強みと弱みという4つの視点で働くと見立てている。ここから学校として進むべき方向性や課題解決のヒントを見出す契機になると考えられている。ある時期毎に分掌単位で、または学校評価の時期に合わせて学校全体でSWOT分析を実践することが学校活性化のヒントを発見する大切なきっかけになるかもしれない。

(5) 学校の課題解決に向けた組織的役割

ここでは仮想学校の内外環境の把握、SWOT分析の実践、ひいては各校の特色作りと課題解決策の発見等、演習・協議型で実践的に学習することができた。この時に学校組織の一員として学校運営にどう関わっていくかという視点を留意して行った。しかし正直な気持ちとしては、ミドルリーダーとして教育活動に参加する難しさ、さらにはその責任の大きさを痛感した。

3 終わりに

先述したように、ミドルリーダーとして学校経営にどう関わっていくか、これはとても大きな課題である。自分自身が一番足りないものはビジョン設定とそこに向けた実行力であることを改めて痛感した二日間の研修だった。これからは校内のみならず、地域とも協働できる学校づくりに向けて、自分自身ができることを考え努力を重ねていきたい。

令和2年度 特別支援教育の年間計画

秋田県立六郷高等学校

月	校内委員会	特別ケース会議	校内研修	関係機関との連携・活用等
4	校内支援体制の確認 生徒支援委員会の組織 コーディネーターの指名	支援対象者の引き継ぎ ・個別の支援計画の確認 ・個別の指導計画の確認 ・新規支援対象者の確認	特別支援教育コーディネーターによる説明	各種研修会申し込み ・特別支援教育セミナー ・コーディネーター研修会
5	第1回校内委員会 ・今年度の方針確認 ・確認ケース会議 ・研修計画の検討 ・スクールカウンセラーとの連携	保護者面談 ・個別の支援計画の作成 ・個別の指導計画の作成 指導・支援の実施		専門家・支援チームの巡回相談要請 教育専門監派遣要請 ・個別の指導計画作成助言 総合教育センターC講座の申し込み 新任特別支援教育コーディネーター研修会第I期受講
6	・スクールカウンセラーとの連携	指導・支援の実施	新任特別支援教育コーディネーター研修会報告会①	
7	・スクールカウンセラーとの連携	指導・支援の実施		新任特別支援教育コーディネーター研修会第II期受講 総合教育センターC講座受講
8	・スクールカウンセラーとの連携	指導・支援の実施	新任特別支援教育コーディネーター研修会報告会② 特別支援教育コーディネーターによる研修会①	教育相談の受け入れ
9	第2回校内委員会 ・ケース会議 (支援の評価及び改善、支援対象者の選定) ・スクールカウンセラーとの連携	保護者面談 ・個別の支援計画の評価・改善 ・個別の指導計画の評価・改善		
10	・スクールカウンセラーとの連携	指導・支援の実施		
11	・スクールカウンセラーとの連携	指導・支援の実施		新任特別支援教育コーディネーター研修会第III期受講 総合教育センターC講座受講
12	・スクールカウンセラーとの連携	指導・支援の実施	新任特別支援教育コーディネーター研修会報告会③	
1	・スクールカウンセラーとの連携	指導・支援の実施		
2	・スクールカウンセラーとの連携	指導・支援の実施		
3	第3回校内委員会 ・ケース会議 (支援の評価及び改善、次年度支援対象者の選年度反省と次年度の計画)	保護者面談 ・個別の支援計画の評価・改善	特別支援教育コーディネーターによる研修会②	専門家・支援チームの巡回相談要請 ・支援の評価と個別の指導計画等の改善への助言

高等学校特別支援隊訪問

- 日 時：令和2年5月28日（木）
- 講 師：教諭（兼）教育専門監 菅原 吉伸
教諭（兼）教育専門監 大沢 貴子
- 日 程：5校時 13：05～13：50 授業参観（行動観察）
6校時 14：00～14：45 授業参観（行動観察）
15：20～16：20 指導・助言（会議室）
- 対 象：1年生徒（6名）、3年生徒（1名）
- 相談内容：・発達障害のみではなく、知的な遅れが見られる生徒に対しての指導のあり方について。
・気になる生徒に対して指導のあり方、進路支援をどのように進めていけばよいかについて。

講師の先生方に授業の様子を観察していただいた。その後の研修会では当該生徒の担任から普段の様子や指導・支援で困っている事などの説明があり、講師の先生方から、授業見学の感想や支援方法などについて一人一人お話していただいた。中学時代から関わりのある生徒もあり、生徒の特徴や行動パターンなども具体的に教えていただくことができた。

【主な支援方法の例】

- ・中学校からの情報を有効活用する
- ・試行錯誤しながら、どのような手立てで良くなってきているか知る
- ・口頭だと理解できない場合、視覚で理解させる
- ・板書が遅い生徒に対して、プリント学習で補う
- ・窓の外を眺めて集中していない場合、声をかけて現実に戻してあげる
- ・見通しを持ってない生徒に対して、授業の始めに本時の流れを確認する
- ・できない事を指摘するのではなく、できることを伸ばす
- ・3つ注意する場合、10褒める
- ・個別に指導を行う

【保護者との関わり】

- ・保護者の頑張りも認めてあげる

後日、進路指導についてもご回答していただいた。

特別支援研修_写真



「教員介護実習」研修事後課題レポート（令和2年度）

学校名 秋田県立六郷高等学校

氏名 高橋 直子

1 実施にあたっての課題

「信頼関係を築くコミュニケーションについて」

2 課題解決のための取組

（1）課題への取組

貴施設は、これまで生徒の実習日に巡回指導で訪問していたため、施設内の明るい雰囲気や、職員の方々の朗かに働いている様子からとても良い印象を持っていた。ぜひ貴施設で実習をさせていただきたいと考え、5日間の教員介護実習に臨んだ。

まず、施設と介護職と御利用者について記述する。施設は2階の介護老人福祉施設のほか、1階に短期入所、3階に特定施設のケアハウスを構えており、建物は中庭を囲むように口の字型に設計されていた。2階の特養の居住スペースは、東と西の通りに分かれていて、個室と2名用の多床室、トイレ、排泄介助等の準備室、物品倉庫が設置されている。東の通りと西の通りの間の2カ所のホールは、御利用者が離床時に過ごす場、食事をとる場として利用されており、施設周辺一帯の景色が一望でき、陽の光をふんだんに採り入れられる明るいホールとなっている。そこでは御利用者が新聞を読まれたり、テレビを見たり、日課のようにエプロンやおしぼりたたみをする様子、御利用者自身のペースでゆっくりと過ごされている様子などが見られた。廊下の壁には風景写真や絵画、行事に合わせた装飾が施されてあるほか、その日の勤務担当の職員の顔写真と名前が掲示されており、視覚的に捉えやすいように工夫されていた。御利用者それぞれには、モニタリングを担当する介護職員が決まっています、居室の壁面に顔写真付きで担当職員の名前が書かれたカードが掲示されていた。担当職員は、居室の環境整備や清掃、毎月のモニタリング、お手紙作成、衣類の管理、誕生日カード制作等を行っているとのことだった。これらは施設の業務として概ね一般的なことだと思うが、こうした馴染みの職員が付いていることは、御利用者や家族にとって安心感につながるものだと感じた。

現在、介護職員の勤務体制は5体制に分けられており、休憩を除く8時間勤務に設定されていると伺った。夜勤の時間が一般的な16時間勤務とは異なり、22時から翌朝7時までに設定されていた。御利用者への支援、特に食事介助等に対する人手不足の改善を目的として、時間帯に応じて勤務人数の調整が行われている模様だった。この実習中に行われた職員会議の場でも、現在の人員配置のうち、遅番⑧を減らして早番か日勤の人数を増やすように調整する協議が行われていた。業務内容については当番によってしっかりと業務分担されており、また随時職員同士で協力しながら支援に入られていた。仕事の手を休めることなく次から次へと行われていたが、流れ作業ではなく、ひとつひとつの仕事が丁寧で、しかし効率的に進めることができるように様々と工夫されているように感じた。感染症対策では出勤時と休憩後の2回の検温やこまめな手洗い、マスク着用など、全職員で徹底している印象を受けた。私的に会食や外出の自粛など三密の回避も普段から注意して、自らが感染者にならないよう留意されていることも伺った。人を相手にする職業とは、常に柔軟な対応のくり返しである、と私は考えているが、柔軟な対応に向き合おうとする姿勢や、職場環境の改善に努めようと臨まれているところが強く印象に残っており、改めて貴施設の魅力のひとつである

と感じた。

御利用者の身体状況については、入所対象が要介護度3以上であるため、概ね何らかの支援が必要な状況である。障害高齢者および認知症高齢者の日常生活自立度を数値で判定すれば同程度の方々かもしれないが、実際に御利用者を個々に観察すれば、ひとりとして同じような状態の方はいらっしゃらない。ADL、障害、病歴、体力、特徴、人格、年齢、入所の経緯など、様々な状況の方が入所されている。意思疎通がおおよそ可能な方、立位保持は困難だが食事は自力摂取可能な方、食事、排せつ、入浴等、常時医療的なケアや介護を要する方、認知症や精神的な症状のある方など、様々な方が入所されており、御利用者の心身の状況や、その時の状況に応じた介護が行われていた。介護行為はすべてエビデンスに基づいて行われる。御利用者の状況に応じた適切な介護が常に求められる。介護度が高くなればなるほど、ひとつひとつの介護行為が生命を守るために重要になってくる。その日の健康状態から看護職との連携をとる、食事介助時の姿勢や車いすの角度に細心の注意を払う、食事前の口腔ケアの実施で脳や感覚器へ刺激を与えて唾液分泌を促す、嚥下状態の確認を行ってその方のペースに合わせて食事介助を進める、食後の安静と状態観察のためにすぐに居室誘導せずにホールで休憩、静養していただく、長時間の離床が困難な方も含めて離床のタイミングに考慮して促すなど、当たり前の介護行為は当たり前に、確実に、そしてきめ細やかに検討してケアされていると感じた。

御利用者はそれぞれのペースで穏やかに時を過ごされている。現場スタッフの方々が始落着いて対応しているため、御利用者のペースが守られていると感じた。また御利用者の中には、食事の経口摂取ができるようになって体重が増量し、寝たきりでも状態悪化することなく過ごされている方がいらっしゃると思った。ただの生活の支援ではなく、御利用者の全体像を生活や環境など多面的に捉えて検討を重ね、その時の状態に応じたより良いケアを実現されているからだと思う。同時に、御利用者や御家族の思いに寄り添いたい、叶えたいという職員の方々の高い意識も影響していると考える。職員の方々は如何なる時も、家族のように温かい眼差しと言葉遣いで接している。業務中にちょっと急ぎたい場面でも、御利用者に接する際はきちんと立ち止まり目線を合わせて姿勢を低くして話す姿や、御利用者の話にじっくりと耳を傾ける姿などを目の当たりにした。職業人としての自覚や誇り、御利用者への想いをしっかりと持ちながら従事されていることと拝察した。言葉で言うのは簡単なことだが、実際に日々一貫してその姿勢を貫くことは人間ゆえに難しさもある。貴施設の職員の方々の並々ならぬ努力の賜物だと感じている。自校の生徒もこのような信念を持った介護福祉士になれるように育てていきたい、と改めて強く感じた5日間であった。

コミュニケーションについては、事前課題のとおり様々な場面で学ばせていただいた。また現場で行われている介護についても個別の状態に応じた介助方法を学ばせていただいた。今後、生徒の指導の際には折に触れて話していこうと考えている。御利用者との信頼関係を築くためにはコミュニケーションを密に取ることが大切だと耳にする。しかし、特別に何か話しかけることが大切なのではなくて、日々途切れない絶え間ない関わりの中で、つねに相手を思いやる姿勢で接していくことが信頼関係に繋がっていくと考える。もちろん言葉のやり取りも大切だが、言語以外の、介護者の表情や声のトーン、声の大小、高低、視線、姿勢、触れ方、足音などの準言語や非言語の部分がより重要なのではないかと考える。例えば、大切にしたいと思っている相手から良く思われたいとき、良い印象を与えたいとき、傷つけないとき、そして頼りにしてほしいときなどには、接し方ひとつひとつに注意し、「こうしたら相手はこんな風に感じるのではないか」などと注意深く思いを巡らせると思う。つまり、相手の立場や思いに寄り添った行動をすることが信頼関係を築くための第一歩

だと考える。日々のひとつひとつの関わりを大切に積み重ねていけば、人間関係は徐々に構築されていく。さらに御利用者の幸せな生活を守るために必要なことは何か、今願っていることは何か、この方にはどのような支援が適切なのか等々、様々な視点から考えて行動することで信頼関係に結びついていくことを職員の方々から学ばせていただき、今回の実習で再確認することができた。

併せて、職員同士のコミュニケーションの重要性を改めて感じた。まずチームアプローチの職場で欠かせない“報連相”が徹底されていた。対応する職員が交代しても一貫した介助や声かけがなされていた。そして職員同士が気持ちの良い挨拶をしたり、互いを敬う言葉遣いであったり、楽しい話題で自然に会話が飛び交うなど、共に働く「仲間」、本当の「チーム」ができていた。良好な人間関係が日々のなかで構築されていると実感した。また、熟練の先輩職員が若手の職員に指導助言をすることで、若手の職員がどれだけ安心感を持って働くことにつながっているだろうかと感じた。経験の浅い職員が、熟練の職員からのスーパービジョンを受けながら介護技術のスキルを向上させたり、多様なケースに対応してきた経験豊富な先輩方からのアドバイスを享受することは、本や動画で学ぶよりも耳に入るだろうし、何よりも新人の自分を受け入れてもらえている安心感がうまれると思う。自信を持つことで仕事に向かう姿勢もプラスに変わっていくのではないかと考えた。よりよいサービスを提供するためには職員同士の信頼関係も欠かせないということを改めて感じ、生徒たちにも「学ぶ姿勢、得ることの喜びと感謝の気持ちを伝える姿勢」などを講義で何度も確認していきたいと感じた。

(2) まとめと今後の課題

実際の現場をとおして介護のあり方はもちろんのこと、「介護」にとって大切なことは何かを考える貴重な実習となった。人を支える人になるには、まず自分が“人”でなければならないと感じている。介護従事者は、御利用者の生活歴や人生観などを「利用者A、利用者B」といった存在ではなく、「一人の人間」として受容し、尊厳を守ることのできる、『こころ豊かな人間』であることが大切である。まだまだ人間として成長過程のすべてにおいて未熟な10代の高校生が、卒業までに、人を支える“人”に近づくことができるのか、「求められる介護福祉士像」に近づくことができるのか。これは生徒本人の努力も必要だが、成人として、社会の先輩として、そして知識を与える存在として、私たち福祉科教員の指導内容や指導方法など、指導力が関わってくると考えている。学校や現場実習など様々な場面での学びはもちろんのこと、高校3年間で出会ったり経験したり感じることを通じて、福祉科の生徒が心身共に成長して“人”になっていけるように、これからも教員として役割を果たしていきたい。今回の貴重な5日間の経験を授業の中で存分に生かしていきたい。将来、御利用者の穏やかな日常を支える介護福祉士として社会に貢献できるような生徒を育てていきたいと思う。御多用のところ、今回の実習を快くお引き受けくださり、心から感謝しております。御指導を賜りまして大変ありがとうございました。

編 集 後 記

令和2年度は新型コロナ対策と共に始まり、その対応に追われた年度となりました。そのため、校外研修会の中止や変更により、十分な研修ができなかったことを残念に思います。

このような状況の中でも、何とか研究集録をまとめることができましたこと、原稿を寄せてくださった皆さまに心より感謝いたします。

今後も六郷高校の発展のため一つの参考になればと思います。

令和3年3月 研修部